

シンポジウム

礼拝空間 —超越者と対峙する場の創造—

パネリスト 木俣元一 名古屋大学 + 喜多崎親 成城大学 + 長岡龍作 東北大学 + 守屋正彦 筑波大学
司会・進行 長田年弘 筑波大学

趣旨

長田 年弘

聖堂建築内の礼拝空間について、中世および近代のキリスト教会、仏教寺院、儒教聖堂の、それぞれの具体例に基づき考察する。本尊および建築内部装飾によって成り立つ内部空間は、美術史上の様々な問題を提示するが、祈りの場にどのような意味が与えられたのか、崇拜者に焦点を当てることで議論を収斂させる。
(おさだ・としひろ)

ゴシック聖堂の展示プログラム

木俣 元一

シャルトルやストラズブルなどのゴシック聖堂の実例に基づき、建築によって提供される礼拝空間という枠組が、そこで執り行われる典礼を媒介としながら、その空間に設置される祭壇、聖遺物、磔刑像、彫刻、ステンドグラスといった多様な要素とともに、聖堂を訪れる信徒の内面において、いかなる認識や経験を生み出すようプログラムされていたのかについて考察する。
(きたま・もとかず)

機能する様式 —19世紀パリのサン=ヴァンサン=ド=ポール聖堂を中心に—

喜多崎 親

19世紀前半の西欧建築は、過去の歴史的様式の単なる模倣・折衷ととらえられがちである。しかし様式の選択は、機能を考慮してなされる面もあった。1853年に完成したパリのサン=ヴァンサン=ド=ポール聖堂は、当時の建築史観や宗教画観によって選択された様式が結びつくことによって、アプシスへ注意を向ける統一的礼拝空間が実現された例である。
(きたざき・ちかし)

仏教の礼拝空間—超越者との交感と美術—

長岡 龍作

仏教の基本原則に「因果」がある。「善果」である超越者からの応答は、礼拝者が作る「因」が前提となって実現する。美術はこの構造の中で役割を果たすことになる。本発表では、平安時代の礼拝空間と美術を取り上げ、礼拝者の祈願、彼岸・此岸の世界観、期待される奇跡などに着目しながら、その意味と機能について考察してみたい。
(ながおか・りゅうさく)

儀礼空間の表象 —日本の孔子像の変遷について—

守屋 正彦

儒教は聖殿の中心に孔子の霊位か孔子像を祀る。それは寺院の伽藍における塔と仏殿のような共存的な礼拝空間とは相違している。孔子廟大成殿では、大陸においても、我が国においても礼拝の首座は霊位か像かのどちらかを選択し安置している。発表では祈り供養する我が国の孔子像の祀り方、造像のありかたを中心に考えたい。
(もりや・まさひこ)